

二〇二五年度(令和七年度)一般選抜型選抜 後期 国語 問題用紙

※ 解答はすべて解答用紙に記入すること。

一

次の①～④の傍線部分の読み方を書きなさい。また、⑤～⑧の傍線部分を漢字に直しなさい。その際、必要なら送り仮名も書くこと。

- ① 突然の大臣辞任は事実上の更迭とみられる。
- ② 彼女の繊細な所作に感銘を受けた。
- ③ この本の挿絵は私の好みだ。
- ④ 今回の不祥事は会社の浮沈に関わる一大事だ。

- ⑤ 世界の平和と国家のあんたいを願う。
- ⑥ 多額のばいしょうきを支払う。
- ⑦ その店はかんせいな住宅街に移転した。
- ⑧ 彼の報告はいつわりであると分かった。

二

次の文章を読み、問一から問五に答えなさい。

著作権の関係で現在掲載できません

エ ウ イ ア

問
三

問
二

ア

問
一

才

問四

ア
イ
ウ
エ
オ

問五

【三】 次の文章を読み、問一～問六に答えなさい。

実はもう一つ、少なくない人びとが「ナチスは良いこともした」と語りたがる理由がある。そういう主張によって、現代社会における「a政治的正しさ（ポリコレ）」をひっくり返すことができるのではないかと考えられているのだ。

〈中略〉

歴史的事実をめぐるこうした問題を別の観点から整理すると、〈事実〉〈解釈〉〈意見〉の三層に分けて検討することができるかもしれない。

歴史学は何らかの形で事実性に立脚しなければならない。それに反するものは主張の根拠とすることはできない。この点にはほとんどの人が同意するだろう。ここで「事実」ではなく「事実性」という言葉を使ったのは、たとえば一九三三年一月三〇日にヒトラーが首相に任命されたという揺るぎない「事実」だけでなく、先ほど述べたような、当時の人びとがどう思っていたかという「心性」のような問題も歴史学は扱うからだ。その場合、日記でも手紙でも、裁判記録でも聞き取り調査でも、とにかく検証可能な何らかの形の根拠にもとづいていなければならない。もちろん過去のすべてが記録に残っているわけではないから、推測を迫られることもあるが、そうであっても、すでに明らかになっている事実性に矛盾するような推測は許されない。

〈中略〉

もともと、こうした〈事実〉のレベルで片付けられる問題は、実はそれほど多くない。歴史学においておそらくもつとも重要な、しかし社会においてしばしば非常に軽視されがちな点が、二番目の〈解釈〉の層、「」。

A

たとえばナチスの家族政策を例に考えてみよう。ナチ体制下では将来の兵士や労働力を産み育てることが強くもとめられ、出産に対して様々な報奨制度が存在した。結婚に際しては貸付金が与えられ、子どもを一人産むことに返済額が四分の一ずつ免除された（つまり四人産めば全額免除となった）。全国母

親奉仕団が母親学校を開催し、主婦・母親としての訓練を施した。全国二万五〇〇〇カ所の母親相談所では、母親への助言や情報に加え、乳児の下着や子ども用ベッド、食料品などの現物支給も行われ、一〇〇〇万人以上の母親がそうした支援を受けた。会社内には幼稚園が設けられ、ケースワーカーが生活問題全般の相談に乗った。親衛隊の「生命の泉」では未婚の母への支援も行われた。

これだけ〈事実〉を列挙すると、「やっぱりナチスは良いこともしたではないか」と感じる人が多く出てきても不思議ではない。現在の政府によるお粗末な子育て支援よりはるかに充実しているのではないかと、羨ましく思う人もいるかもしれない。事実、「女性に様々な配慮をしていたナチス・ドイツは、子育て大国だったのだ」と主張する本も出版されている。だが歴史研究が取り組んできたのは、こうした家族政策がどのような文脈で、どんな政策とセットで行われたのかという問題だ。

ナチスの家族政策に関して忘れてならないのは、こうした支援策の対象となったのが、①ナチ党にとって政治的に信用でき、②「人種的」に問題がなく、③「遺伝的に健康」で、④「反社会的」でもない人びとだけだったという点である。

【例示 X】

ナチスの家族政策は、こうした人種主義的な「民族共同体」を構築するための手段の一つだったのだ。さらに言えば、結婚資金貸付制度も当初は女性が仕事を辞めることを給付の前提としていた。ナチスは少なくとも政権初期段階では「反女性解放」を掲げる体制でもあった。

「目的や文脈などはどうでもいい、良いものは良いのだ」と感じる人も、ひよっとしたらいるかもしれない。たしかに三つ目の層である〈意見〉は最終的には個人的なものであるから、そのような考えをもつこと自体を止めることはできない。ただしそこでぜひとも知っておいてもらいたいのが、ドイツ語の「Tunnelblick」という言葉である。そのまま日本語に訳すと、「トンネル視線」とでもなるだろうか。自分にとって都合の良いところ（この場合は「ナチスの良いところ」）だけを照らし出し、それ以外が見えなくなっている状態を指す。

〈解釈〉という層が非常に重要である理由が、まさにこの点にある。歴史研究の蓄積を無視して、〈事実〉のレベルから〈意見〉の層へと飛躍してしまうと、「全体像」や文脈が見えないまま、個別の事象について誤った判断を下す結果となることが多いのである。そうした目的や文脈を含めてもなお「良いこと」と強弁することは可能かもしれないが、現代社会においてそれが共通了解となることはおそらくないだろう。これは一般読者でも研究者でも状況は同じである。一次史料ばかり収集しても関連する研究文献をきちんと読み込んでいなければ、研究者ですら思い違いを免れない。歴史学で卒業論文を執筆する学生が「研究史が何よりも大事だ」と耳にタコができるほど聞かされるのも、基本的には同じ理由による。

もちろん、歴史研究者も万能ではない。思い違いをすることもあるし、他者の批判を受けてようやく認識の不足に気付くということもある。しかしだからといって、〈B〉の層を飛び越してよいということにはならない。〈C〉から〈D〉へと飛躍することの危うさは、何度でも指摘しておく必要があるだろう。〈E〉をもつことはもちろん自由ではあるが、それはつねに〈F〉を踏まえた上で、〈G〉もある程度はおさえたものでなくてはならない。

二〇二二年度から高等学校で「歴史総合」が始まり、歴史事象について自分の〈意見〉をもつようも

とめられることが増えていくだろう。その際、〈事実〉〈解釈〉〈意見〉という三層構造は、「歴史的思考力」の前提としていよいよ重要になってくるはずである。

（出典… 小野寺拓也・田野大輔『検証 ナチスは「良いこと」もしたのか？』岩波書店、二〇一三年）

問一 傍線部 a「政治的正しさ(ポリコレ)」とあるが、これに対応する四字の語句が本文中の別の段落に埋め込まれている。この語句を解答欄に書きなさい。

問二 空欄 Aに入れるべき表現として最も適したものを、次のア～オから選び、記号で答えなさい。

- ア 歴史研究が推し進める事実の究明である
- イ 歴史研究が積み重ねてきた膨大な知見である
- ウ 歴史学を人々が学び理解を深めるようとする意欲である
- エ 歴史学の研究者が収集すべき一次史料である
- オ 歴史的事実に対する市民の多様な意見の検証である

問三 本文は、「ナチスは良いこととしたのか？」という問いに対して、ナチスの家族政策を取り上げ批判的な立場をとっている。その根拠となるいくつかの具体例が【例示 X】に展開されている。これについて、例示として相応しくないものを、次のア～エから一つ選んで、解答欄に記号で答えなさい。

- ア 社会主義者や共産主義者などの政治的敵対者やユダヤ人、障害者や「反社会的分子」とされた人びとは、家族支援策から排除されていた。
- イ ナチ体制下では、地方保健機関の発行する「婚姻健康証明書」で遺伝的健康が証明できなければ結婚できなかったし、子どもを産まない「繁殖拒否者」には罰金が科されていた。
- ウ 生活困窮者（こんきゆうしや）に対しては、まずは強制断種（四〇万人）、さらには「安楽死」（三〇万人）という名の殺害が行われた。
- エ 同性愛者も迫害を受け、五万人に有罪判決が下されている。そのうち強制収容所に送られたのが五〇〇〇～一万五〇〇〇人、死者は三〇〇〇人程度とされる。

問四 傍線部 b「トンネル視線」とあるが、このことの意味に合わない、不適切な説明を次のア～エから二つ選び、記号で答えなさい。

- ア 目的や文脈などはどうでもいい、良いものは良いのだ
- イ 自分にとって都合の良いところだけを照らし出し、それ以外が見えなくなっている
- ウ ナチスは良いこととした
- エ 〈解釈〉によって暗いトンネルを抜け、事実の視界が開ける

オ 全体像や文脈を見渡し、個別の事象について正しい判断をする

問五 空欄B～Gに入れるべき言葉として最も適した言葉を、次のア～ウから選び、記号で答えなさい。
同じ言葉が二回以上入ることがあるので、留意すること。

ア 事実 イ 解釈 ウ 意見

問六 傍線部c「〈事実〉〈解釈〉〈意見〉という三層構造は、「歴史的思考力」の前提としていよいよ重要になってくる」とあるが、三層構造のうち筆者がもつと重要と考える層を、解答欄①に二字で指摘しなさい。また、その理由を、三層構造との関係性をもつて解答欄②に一二〇字以内で説明しなさい。

□

U

□

U

□

U

U

└─

U

□

U

□

U

□

U

二

A

U

U

U

[illegible][illegible]

▲
40 字

⌈
⌋

$$\begin{array}{c} \text{B} \\ \frown \\ \text{C} \\ \frown \\ \text{D} \\ \frown \\ \text{E} \\ \frown \\ \text{F} \\ \frown \\ \text{G} \\ \frown \end{array}$$

①

[illegible]

▲
120 字

二〇二五年度 一般選拔型選抜 後期国語 解答例・出題意図

一 (計16点)

- | | | | |
|---------|---------|--------|--------|
| ①「こうてつ」 | ②「せんさい」 | ③「さしえ」 | ④「ふちん」 |
| ⑤「安泰」 | ⑥「賠償」 | ⑦「閑静」 | ⑧「偽り」 |
- (2×8＝16点)

二

問一 A B C

問二

問三 「 」

問四 「 」

問五

三 (計45点)

問一 「 共通了解 」

【出題意図】

文章読解力と、論理構造を読み取る力を問うている。
(7点)

問二 「 イ 」

【出題意図】

文章読解力を問うている。

(6点)

問三 「ウ」

【出題意図】

文章読解力と、想像力を問うている。

(6点)

問四 「エ」「オ」

【出題意図】

文脈を掴む力を問うている。

(各4点×2＝8点)

問五 B「イ」 C「ア」 D「ウ」 E「ウ」 F「ア」 G「イ」

【出題意図】

文脈を読み取る読解力と、論理的な思考を問うている。

(各1点×6＝6点)

問六

【解答例】

① 「解釈」

②

〈解釈〉の層を最も重要としている根拠は、〈事実〉のレベルから〈意見〉の層へと飛躍してしまうと、歴史の全体像や文脈がみえないまま、個別の事象について誤った判断を下してしまうからである。(91文字)

《別解》

〈解釈〉の層を最も重要としている根拠は、歴史が〈事実〉の層で片付けられる問題は、それほど多くなく、〈解釈〉をもってこれを思考することが少なくないからである。

【出題意図】

文章作能力と、文章の論理構造を読み取る力を問うている。

① (2点) ② (10点)